

アキュラグループ社会貢献活動『木望^{きぼう}の未来プロジェクト』 間伐材を採用した小学校学習用机の天板を15校に計2056枚寄贈 ～「カンナがけ体験」、活動の場を広げ、様々な団体と連携～

木造注文住宅を手がける株式会社アキュラホーム（本社：東京都新宿区、社長：宮沢俊哉）とグループ会社のオカザキホーム（本社：愛知県岡崎市、社長：仲野正治）は、木の家を提供する企業として、子どもたちに木の素晴らしさを伝える「木望（きぼう）の未来プロジェクト」を行っています。2012年度は15の小学校に対して間伐材を採用した小学校学習用机の天板計2056枚を寄贈し、そのうち7校で木の良さを伝える出張授業「ふれあい授業」を実施しました。

「木望の未来プロジェクト」は次代を担う子どもたちへ「森のすごさ」「木の素晴らしさ」「物づくりの楽しさ」の理解を深めてもらうことを目的に2010年よりスタートしました。活動内容は、間伐材を加工し製作した小学校学習用机の天板（以下 天板）を小学校に寄贈して古い机を再生します。生活の様々な場面で“木を大切にする気心”を伝えたいという思いから天板を交換した机は「木ごころ机」と名づけています。また、森林の大切さや木の良さを伝える講演とカンナがけ体験をする出張授業「ふれあい授業」を通して、子どもたちは自然環境を学び、木に直接触れることで木の性質や温もりを知る機会としています。

※「木」と「希望」を組み合わせ「木望（きぼう）の未来プロジェクト」と名づけました

間伐材を加工し製作した小学校学習用机の天板交換

天板交換前の机



天板交換後の机「木ごころ机」



出張授業「ふれあい授業」



■ 木望の未来プロジェクト 2012年度活動・受賞実績

- ・15の小学校で計2056枚の天板を交換し、その内の7校でふれあい授業を実施
実施地域：埼玉県熊谷市、川越市、桶川市、東京都武蔵野市、多摩市、神奈川県横浜市、千葉県白井市、我孫子市、静岡県浜松市、愛知県丹羽郡、岡崎市、広島県東広島市、尾道市
- ・「2012年度グッドデザイン賞」受賞、更に「ベスト100」に選出
グッドデザイン全受賞対象1,108件の中でもより高い評価を受けた「グッドデザインベスト100」（金賞等特別賞候補）に選出され、「グッドデザインベスト100 デザイナーズプレゼンテーション」の場で本活動について発表しました。
- ・様々な団体の活動に参加して「カンナがけ体験」を実施
「第9回ワークショップコレクション」（主催：NPO法人CANVAS）、「キッズワークショップ カーニバル in ふくしま」（主催：キッズデザイン協議会）



本活動は3年目を迎え、自社独自の活動に留まらず様々な団体とも協同し、展開しています。今後も活動を通して地域の豊かな社会形成に貢献するとともに、子どもたちへは木の魅力や地球環境保全についての知識を深めてもらえるよう努めてまいります。また、当社が主宰する全国の工務店ネットワーク「ジャープネット」へその輪を広げていきたいと考えます。

■ 活動一例

1. 出前授業「ふれあい授業」

日時 : 2013年2月7日(木) 9:15~10:04
場所 : 浜松市立鴨江小学校(静岡県)
対象 : 5年生 61名
実施内容 : 森林の大切などを伝える講演、かんながけ体験
使用教材 : 木育(もくいく)ノート

出版: 財団法人 日本木材総合情報センター

※木育ノート



当社社員が講師となり、配布した教材をもとに森林と間伐の必要性や、木の良さについて説明します。またカンナがけ体験では、大工さんのサポートを受けながらカンナで桧を削ります。表面がすべすべになった木の手触りや桧の香りを五感で感じてもらうとともに、ものづくりに接してその楽しさを体感してもらいました。良い香りのする削り華(かんなくず)は、お土産としてプレゼントしました。



2. ブース出展 福島復興支援プロジェクト「キッズワークショップカーニバル in ふくしま」

日時 : 2013年3月9日(土)・10(日)
会場 : 子どもの夢を育む施設こむこむ(福島県福島市)
対象 : 幼児から小中高校生まで
主催 : 特定非営利法人キッズデザイン協議会
協力 : キッズデザイン協議会員各社、キッズデザイン賞受賞団体
実施内容 : かんながけ体験、間伐材のキーホルダーづくり

地元福島県の光建設株式会社(ジャーブネット会員企業)の協力を得て、被災地の子どもたちに楽しみながら体を動かしてもらうことを目的にカンナがけ体験と間伐材のキーホルダーづくりを実施しました。間伐材のキーホルダーづくりでは、サイコロ状の間伐材の表面を紙やすりで磨き整えた後、思い思いの絵を描いたり、動物の目や耳を貼り付け、お気に入りのキーホルダーをつくります。住宅をつくる大工さんの仕事を知る機会にもなりました。



■ 天板に“間伐材”を採用する理由

日本は国土の67%が森林に覆われ、そのうち4割は人工林です。人工林の役割は木材を採ること以外にも、水源確保、自然災害防止、地球温暖化防止など多岐に亘りますが、昨今人工林の間伐が行われず荒廃が進んでいます。理由としては、間伐材※は細く未成熟材のため主伐材よりも用途が限られることや、安価な輸入木材が多く出回ることによって需要が減少していることが挙げられます。木を扱う当社はこうした状況を踏まえ、間伐材を積極的に採用することによって環境保全の一助となればと考えています。また、社長の宮沢が元大工で「カンナ社長」の愛称を持つことから、カンナがけを通じて子どもたちに木に触れて好きになってもらいたいと考えました。

※ 間伐材: 森林の木が成長するため間引き(木々の間隔を広くするため一部の木を伐採)された木材

<本件について報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 アクюраホーム 広報課 堀越・若林 Email: aqura_pr@aqura.co.jp

住所: 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル34F TEL:03-6302-5010 (直通) FAX:03-5909-5560

●写真データは右記よりダウンロードすることができます。 <http://www.aqura.co.jp/news.html>